会員の広場	2023年7月１日発行メールマガジン第３６号

常磐線と江戸川鉄橋と斜面林

私の住んでいる松戸は、常磐線が通っています。江戸川の鉄橋を渡り、低地部分を走る数分間が特別な気分にさせてくれます。都内に向かう上りでは、「仕事に行く」、「遊びに行く」、「楽しいことがある」と少し期待して意気込んでいる人たちが多いのか電車内を見渡すとそんな雰囲気が伝わってきます。

下りでは「あぁーっ、終わった」、「楽しかった」というような安堵と興奮冷めやらない乗客の様子が見て取れます。鉄橋を渡る規則的な「ガタッ、ガターン。ガタッ、ガターン」という響きは、松戸で下車する人たちの「さて、降りるぞ」と心の準備を始めるきっかけの響きでもあります。

３０年ほど前、常磐線中距離電車は土浦、水戸方面と遠方までの乗客が多く利用し、帰宅時ごろになると、ボックス席仕様だったこともあり、カップ酒片手におつまみを口にしながら談笑する独特の車内風景がありました。

都内を走る電車ではたぶんできなかったに違いない、独特の風景でした。今頃はさすがにボックス席の車両も少なくなり、カップ酒をあおる姿もほとんどいないように感じます。

常磐線の乗客は松戸より遠方の我孫子、取手、土浦まで行く乗客でも、江戸川の鉄橋を渡ると気分が変わって落ち着くとか、江戸川の鉄橋が好きだという方から話を聞くことがあります。

車窓から外を眺めると、矢切の斜面林が見えます。江戸川べりの低地から北総台地にせりあがっていく斜面で南は市川市の里見公園に、北は戸定が丘歴史公園に続いています。北総台地は江戸川に向かって舌状に低地へ落ち込む地形で樹状に谷津を形成しているので、崖地や急坂が多い地形です。

緑のネットワーク・まつどの主催する松戸のみどり再発見ツアーで数回訪れていますが、斜面林沿いには里見公園、浅間神社、千葉大学園芸学部、戸定が丘歴史公園と見どころも多く、季節を変えて訪れても飽きの来ないスポットです。

斜面林は３０年前とはくらべようがないほど変容しています。外郭環状道路、北総線の整備によって斜面林がぽつりぽつりと、すき間が目立つようになりました。加えて、外郭環状道路の松戸インター周辺に新たな開発構想が上がっているらしく、斜面林の存続が気がかりなところです。

帰り道の常磐線はカップ酒とボックス席に江戸川の鉄橋を渡る揺れが心地よく、抱えている肩の荷を下ろすにふさわしい空間だったのかも…。と矢切の斜面林を見るたびに思わずにいられないのです。

（松戸市　藤田　　隆）

椿を訪ねてお馬鹿な旅③

成田の民家に楼蘭椿

成田市から受注の自然観察会として坂田が池総合公園の冬鳥ガイドを担当しています。

昨年12月に下見を終えて付近の細道を通ると民家の庭続きの辻に咲いている色鮮やかなピンクの椿が目に飛び込んできました。

椿にはピンクの一重だけで何品種もありますが、そのどれとも違う鮮やかさに見とれてしまいました。12月というのに咲き誇っているのでかなりの早咲きです。

まだ若木で背丈は約2m、辻にある道祖神の祠を守るように植えてありました。

他人の庭先でうろうろすれば不審者と思われるので、ピンポンして家主に声を掛けようか迷っていると、タイミング良く玄関から野良着姿の男性が出てきて、納屋の軽トラックの方へ歩く姿が見えました。

「この椿があまりに奇麗なので見とれていました。」と言うと「その花の品種は楼蘭で中国の地名に因んでいる。」と教えてくれました。楼蘭と言えば古くはシルクロードの中継地であり1980年に新疆ウイグル自治区で出土した女性のミイラが有名、その容姿は目が大きく彫り深く、鼻は高く顎は尖り長い睫毛を持ち、深い褐色の髪を肩まで伸ばしていた。ヨーロッパ人の特徴を持つという。

中国美人の名を持つ品種には西王母もあるなー等と思っていると、椿が好きなら他にも植えてあるからと庭へ招き入れてくれました。広大な庭という程でもありませんが、色々な植木に混じって植えてある椿について品種名や特徴を解説してもらいました。

半分くらいは初めて聞く品種でした。12月に咲いているものは少なく花期の姿を想像するだけですが、この人の好みの傾向は派手な洋椿ではなく素朴な一重咲きだなとわかりました。

数々見た後「これは」と指さしたので、私が「玉の浦ではありませんか」というとびっくりしていました。

玉の浦は五島列島で発見されたヤブツバキの突然変異種であるのは、4月の会員の広場で紹介した通りです。

注意深く見れば枝が細く出て、やや枝垂れ気味なので花が無くてもる程度分かります。また、この人の好みの傾向を考えれば必ず持っているだろうと想像していた通りでした。

何やかやと1時間ほど椿談義に花が咲き、落ち葉掻きの仕事に出かける足を引き留めてしまいましたが、相手も久しぶりに話の通じる同好の士に出会えて満足の様子でした。

楼蘭椿の苗を作るなら枝を上げるから、挿し木が出来るようになる6月末か7月に取りに来るよう言われましたので今から楽しみです。

我が家の庭は既に満杯で新しく植えるスペースはありませんが、苗を作っておけば欲しい人に上げられるし、公園などに寄贈も出来ます。自分の目でその花が見られる保証は無くて、花好きの習性で苗作りはやめられません。

佐倉市　　坂本　文雄

ムシたちの夏（夏空に舞う②：タマムシ）

６月は、梅雨入りの季節ですが、雑木林のスパースターたちが登場する季節でもあります。そのスパースターたちの中で先陣を切って登場するのがタマムシ（ヤマトタマムシ）です。

2023 年６月 10 日、天気が晴れ予想だったので、雑木林に行くことにしました。３年前（2020 年８月）にタマムシが、シラカシの伐採木に産卵に来ていたことを思い出し「もしかしたら、新成虫の誕生を見られるかもしれない？」と思い、様子を見にいきました。

＜予想的中＞

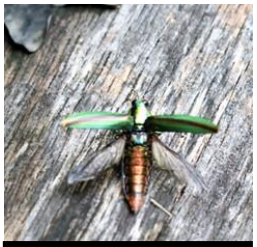
伐採木の小さな穴から新しい木くずが出ていて、その穴の中に緑色の目が見えました。予想は、的中しました。「タマムシだ！」と心の中で叫び、近づくと奥に引っ込んでしまいました。こうなると持久戦です。少し離れた所に拠点をつくり、出てくるのを待つことにしました。

産卵のために集結したタマムシ（2020/8）

＜新成虫誕生＞

待つこと約２時間！動きがありました。穴を大きくし始めたのです。口で木を少しずつ削っていきます。アゴが小さいからでしょう。（でも噛まれると痛いです！）穴を大きくするのには時間がかかりますが、穴から出るのは２分前後です。穴から出る時が、無防備なので早く出る必要があるのでしょう。体全体が出てから数分後、尻から粘り気のある液体を出すと、飛んで行きました。

粘り気のある液体を排出



飛び立つタマムシ

＜おや？をなるほど！へ＞

粘り気のある液体をなぜだすのでしょうか？飛ぶために体を軽くするためでしょうか？なぜ粘り気があるのでしょうか？　また、シラカシの他に柿、桜、コナラにも産卵していることを確認していますが、どのような木の状態を好むのか？掴めていません。これからも観察を続けていきたいと思います。

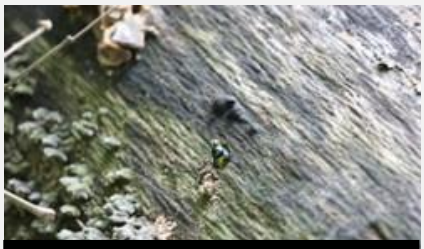
中断している飼育を再会し、自然下ではみることのできない様子も観察していきたいと思います。

脱出後の穴、細長いのが特徴です

西野　孝法(千葉市

＜新成虫誕生＞

7:40 穴の中から外の様子を窺っています



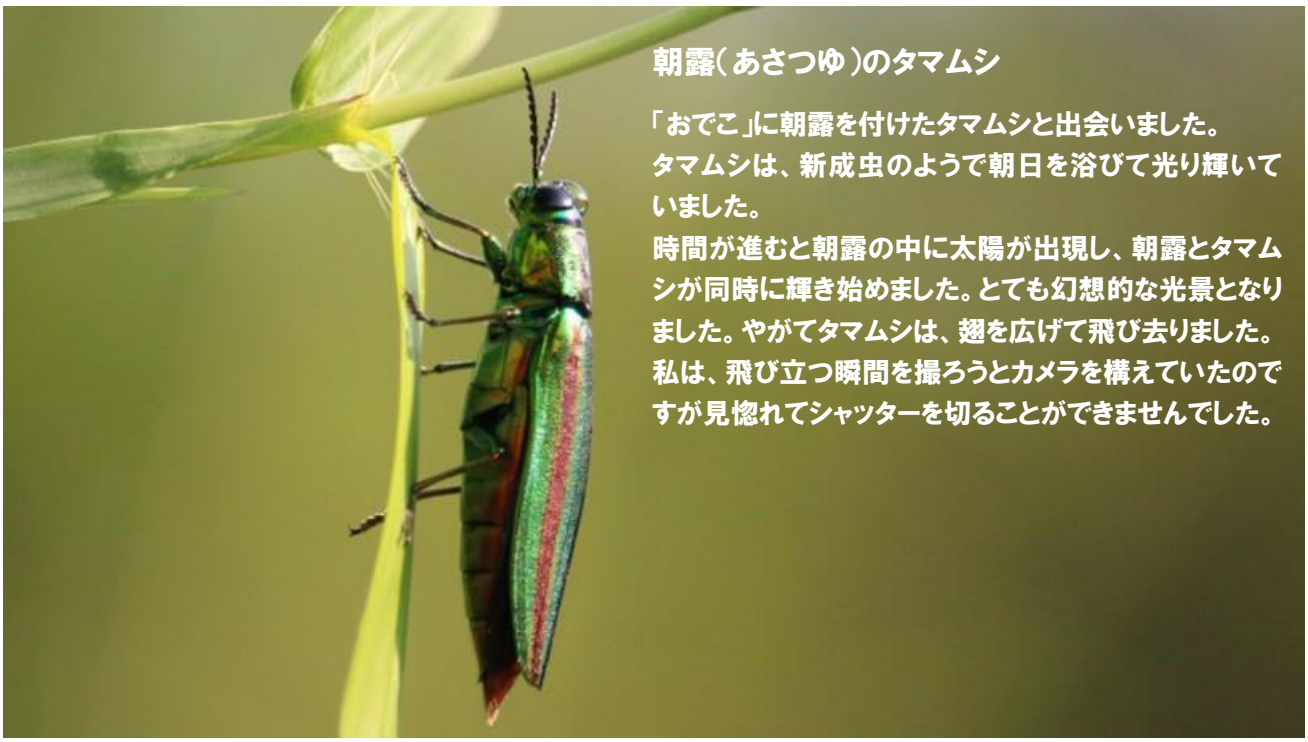
9:40 穴の径を口で削り広げ始めました

10:05 前足が出ました

10:06 中足が出ました

10:06 後足が出ました

10:07 体全体が出ました



朝露（あさつゆ）のタマムシ

「おでこ」に朝露を付けたタマムシと出会いました。
タマムシは、新成虫のようで朝日を浴びて光り輝いていました。
時間が進むと朝露の中に太陽が出現し、朝露とタマムシが同時に輝き始めました。とても幻想的な光景となりました。やがてタマムシは、翅を広げて飛び去りました。
私は、飛び立つ瞬間を撮ろうとカメラを構えていたのですが見惚れてシャッターを切ることができませんでした。

食事と交尾

エノキの葉を食べます

オスの飛来を待つメス

エノキの葉を食べます。メスは、食事を終えるとじっとしています。するとオスが飛んできて交尾を行います。オスは交尾を終えると次のメスを求めて飛び去ります。交尾中のところにオスが飛んでくることもあります。

交尾中です

交尾を終え、飛び立つオス

交尾中に他のオスが飛来し三段重ねなることもあります

産卵：木の隙間やくぼみに産卵管を差し込んで産卵します

産卵管を出して、産卵場所を探します

産卵管を木の隙間に差し込んで産卵します

産卵を終えると、分泌物で卵を被います